

事務連絡

平成 27 年 1 月 7 日

地方厚生（支）局医療課  
都道府県民生主管部（局）  
国民健康保険主管課（部）  
都道府県後期高齢者医療主管部（局）  
後期高齢者医療主管課（部）

御中

厚生労働省保険局医療課

東日本大震災に伴う保険診療の特例措置に関する  
利用状況等の資料提出依頼について

「東日本大震災に伴う保険診療の特例措置の期間延長等について（平成 26 年 9 月 24 日付厚生労働省保険局医療課事務連絡）」に記載した特例措置の利用状況等の把握についての取扱い等を下記のとおりとするので、東日本大震災に伴う保険診療の特例措置を利用している保険医療機関等に資料の提出を依頼するようよろしくお願ひしたい。



記

- 1 地方厚生（支）局は、平成 27 年 1 月 5 日（月）までに保険医療機関等より提出された「東日本大震災に伴う保険診療の特例措置の利用に関する届出書」（別添 1）の写しを、平成 27 年 1 月 13 日（火）までに、下記担当宛に報告すること。  
なお、福島県の保険医療機関等から平成 27 年 1 月 5 日（月）以降に届出があった場合は、速やかに報告すること。
- 2 「東日本大震災に伴う保険診療の特例措置の利用に関する届出書」（別添 1）による届出を行った保険医療機関等は、平成 27 年 1 月 1 日（木）時点の特例措置の利用状況等について、平成 27 年 1 月 19 日（月）までに地方厚生（支）局に資料を提出すること。その際、利用している特例措置ごとに提出が必要な資料（別紙 1～

12、様式1～3等)については、「東日本大震災に伴う保険診療の特例措置の概要」(別添2)に記載しているので、それに沿って対応すること。

なお、福島県の保険医療機関等が、平成27年1月5日(月)以降に「東日本大震災に伴う保険診療の特例措置の利用に関する届出書」(別添1)により届出を行おうとする場合は、併せて、届出時点の特例措置の利用状況等について、利用する特例措置に応じて別紙1～12、様式1～3等を提出すること。

3 地方厚生(支)局は、上記2により提出された資料の内容を確認し、報告内容を取りまとめ、平成27年1月26日(月)までに、下記担当宛に報告すること。

なお、福島県の保険医療機関等から平成27年1月5日(月)以降に届出があった場合は、速やかに報告すること。

また、提出された資料の内容に疑義等がある場合(例:別紙1の記述が粗く、特例措置の利用の必要性が判断できない場合)には、必要に応じて当該保険医療機関等への訪問調査、電話照会等により状況を把握し、併せて下記担当まで報告すること。

厚生労働省保険局医療課企画法令第一係

TEL: 03-5253-1111(内線 3288)

FAX: 03-3508-2746

## 東日本大震災に伴う保険診療の特例措置の利用に関する届出書(平成27年\_\_月\_\_日現在)

厚生(支)局長 殿

※受付番号 \_\_\_\_\_

利用している特例措置 ※別添「特例措置の概要」 の番号を記載すること	番号: _____
	17を利用している場合は、その入院日(※複数名いる場合は、すべての者の入院日を記載) ( 平成 年 月 日 )
	18を利用している場合は、その患者数: _____ 人
利用開始日	平成 年 月 日
平成27年__月時点で 特例措置を利用している 理由 ※該当するものに○(複 数回答可) ※その他の場合は詳細 に理由を記載すること	1. 医師や看護師の確保が困難であり、不足しているため
	2. 転院する施設に申し込んでいるが、後方病床が不足しており、 患者の転院が困難であるため
	3. 入所する施設に申し込んでいるが、受入体制が整っていないことにより、 患者の退院が困難であるため
	4. 転院・入所する施設が見つかっていないことにより、患者の退院が困難であるため
	5. 自宅の倒壊や家族等の受入体制が整っていないことにより、 患者の退院が困難であるため
	6. その他( _____ )
利用開始日が平成27年 4月1日以降となった場 合、その理由(詳細に記 載すること) * 福島県のみ	
・特例措置の利用を継続 する必要性の有無とその 理由 ・特例状態からの解消に 向けた取組 * いずれも詳細に記載 すること。	

(医療機関名) \_\_\_\_\_

(所在地) \_\_\_\_\_

(担当者) \_\_\_\_\_

(連絡先) \_\_\_\_\_

※1 本様式の書式は変えないこと。

※2 受付番号については、地方厚生(支)局都道府県事務所において、1番から連続した番号を付すこと。

※3 所在地は市町村名まで記載すること。



(別添 2)

東日本大震災に伴う保険診療の特例措置の概要

(該当する通知等の詳細は、※を参照ください。なお、新規の特例措置の利用は福島県の保険医療機関のみが利用可能です。)

特例措置の概要		提出が必要な資料
1	仮設の建物による 保険診療等	<p>保険医療機関、保険薬局の建物が全半壊等したため、これに代替する仮設の建物等において、引き続き当該保険医療機関、保険薬局として保険診療等を実施できることとする。(平成23年3月15日付け事務連絡)</p>
2	定数超過入院	<p>医療法上の許可病床数を超えて患者を入院させた場合でも、当面、入院基本料及び特定入院料の減額措置の対象としない。(平成23年3月15日付け事務連絡)</p>
3	月平均夜勤時間数	<p>被災者を受け入れたことにより入院患者が一時的に急増等し、入院基本料の施設基準のうち月平均夜勤時間数(72時間以下)について、1割以上の一時的な変動があった場合においても、当面、変更の届出を不要とする。(平成23年3月15日付け事務連絡)</p>
4	月平均夜勤時間数	<p>被災地に職員を派遣したため一時的に職員数が不足し、入院基本料の施設基準のうち月平均夜勤時間数(72時間以下)について、1割以上の一時的な変動があった場合においても、当面、変更の届出を不要とする。(平成23年3月15日付け事務連絡)</p>
5	月平均夜勤時間数 *岩手県、宮城県及び 福島県のみ利用可	<p>震災の影響により、震災前に比して看護師及び准看護師又は看護補助者(以下「看護要員」という。)の数が減少した保険医療機関については、月平均夜勤時間数については、2割以内の変動の場合には、変更の届出を行わなくてもよいものとし、引き続き震災前の入院基本料を算定することができる。(平成23年9月6日付け事務連絡)</p>
6	看護配置	<p>被災者を受け入れたことにより入院患者が一時的に急増等したため、1日当たり勤務する看護師及び准看護師又は看護補助者(以下「看護要員」という。)の数、看護要員の数と入院患者の比率並びに看護師及び准看護師の数に対する看護師の比率について、1割以上の一時的な変動があった場合においても、当面、変更の届出を不要とする。(平成23年3月15日付け事務連絡)</p>
7	看護配置	<p>被災地に職員を派遣したため一時的に職員数が不足したため、1日当たり勤務する看護師及び准看護師又は看護補助者(以下「看護要員」という。)の数、看護要員の数と入院患者の比率並びに看護師及び准看護師の数に対する看護師の比率について、1割以上の一時的な変動があった場合においても、当面、変更の届出を不要とする。(平成23年3月15日付け事務連絡)</p>
8	看護配置 *岩手県、宮城県及び 福島県のみ利用可	<p>震災の影響により、震災前に比して看護師及び准看護師又は看護補助者(以下「看護要員」という。)の数が減少した保険医療機関については、1日当たり勤務する看護要員の数、看護要員の数と入院患者の比率並びに看護師及び准看護師の数に対する看護師の比率について、2割以内の変動の場合には、変更の届出を行わなくてもよいものとし、引き続き震災前の入院基本料を算定することができる。(平成23年9月6日付け事務連絡)</p>

9	病棟以外への入院	被災地の医療機関において、会議室等の病棟以外の場所に患者を入院させた場合、特例として、その保険医療機関が届出を行っている入院基本料のうち、当該患者が本来入院すべき病棟の入院基本料を算定する。(平成23年4月1日付け事務連絡)	・別紙1、2、5 (有床診療所は別紙1、4、5)
10	他の病棟への入院	被災地の医療機関において、医療法上、本来入院できないう病棟に入院させた場合や、診療報酬上、その病棟の施設基準の要件を満たさない患者を入院させた場合、入院基本料について特例的な算定を可能とする。(平成23年4月1日付け事務連絡)	・別紙1、2、5 (有床診療所は別紙1、4、5)
11	他の病棟への入院	被災地以外の医療機関において、医療法上、本来入院できない病棟に入院させた場合や、診療報酬上、その病棟の施設基準の要件を満たさない患者を入院させた場合における特例的な入院基本料を算定する。(平成23年4月1日付け事務連絡)	・別紙1、2、5 (有床診療所は別紙1、4、5)
12	平均在院日数	被災地の医療機関において、平均在院日数が入院基本料等の施設基準を満たさなくなった場合にも、特例的に従来入院基本料等を算定する。(平成23年4月1日付け事務連絡)	・別紙1、2 (有床診療所は別紙1、4)
13	平均在院日数	被災地以外の医療機関において、被災地の医療機関から転院の受け入れを行った場合には、当該患者を除いて平均在院日数を計算する。(平成23年4月1日付け事務連絡)	・別紙1、2 (有床診療所は別紙1、4)
14	平均在院日数	被災地の医療機関において、在院日数が延長した場合にも、震災前より算定していた入院基本料を算定できる。(平成23年4月8日付け事務連絡)	・別紙1、2 (有床診療所は別紙1、4)
15	平均在院日数 *岩手県、宮城県及び 福島県のみ利用可	被災に伴い、退院後の後方病床等の不足により、やむを得ず平均在院日数が超過する場合には、平均在院日数について、2割以内の変動の場合には、変更の届出を行わなくてもよいものとし、引き続き震災前の入院基本料等を算定することができる。(平成23年9月6日付け事務連絡)	・別紙1、2 (有床診療所は別紙1、4) ・様式3
16	特定入院料の取扱 い	被災地及び被災地以外の医療機関において、災害等やむを得ない事情により、特定入院料の届出を行っている病棟に診療報酬上の要件を満たさない状態の患者が入院した場合には、当該患者を除いて施設基準の要件を満たすか否かを判断することができる。(平成23年4月1日付け事務連絡)	・別紙1、2、5 (有床診療所は別紙1、4、5)
17	転院受け入れの場 合の入院日	被災地及び被災地以外の医療機関において、被災地の他の医療機関が災害等の事情により診療の継続が困難となり、当該他の医療機関から転院の受け入れを行った場合に、特別の関係にあるか否かに関わらず、当該保険医療機関に入院した日を入院の日とする。(平成23年4月1日付け事務連絡)	・別紙1
18	一般病棟入院基本 料	被災地以外の医療機関において、被災地の医療機関から地震の発生日以降に転院を受け入れた場合は、施設基準における要件について当該患者を除いて計算する。(平成23年4月8日付け事務連絡)	・別紙1、5 (有床診療所は別紙1、4)
19	看護必要度評価加 算等	被災地の医療機関において、7対1、10対1入院基本料の一般病棟看護必要度評価加算及び急性期看護補助体制加算の重症度・看護必要度について患者数が基準を満たさない場合でも、特例的に従来入院基本料等を算定する。(平成23年4月8日付け事務連絡)(平成23年4月20日付け事務連絡)	・別紙1～3、10、11 (有床診療所は別紙1、4、10、11)

20	透析に関する他医療機関受診	被災地の医療機関から慢性透析患者を受け入れた場合に被災により透析設備が使用不可能となった場合に、特例的に、透析を目的とした他医療機関受診の際の入院基本料等の減額を行わない。(平成23年4月8日付け事務連絡)	-別紙1、6
21	平均入院患者数 *岩手県、宮城県及び福島県のみ利用可	被災地の医療機関において、震災後に看護師等及び入院患者数が大幅に減少している場合に、震災後の入院患者数の平均をもって平均入院患者数とすることができる。(平成23年9月6日付け事務連絡)	-別紙1、2、10 (有床診療所は別紙1、4、10) -様式1、2
22	外来機能の閉鎖 *岩手県、宮城県及び福島県のみ利用可	入院診療や在宅医療を行う保険医療機関において、医師が不足している場合や、周囲に入院診療を行う保険医療機関が不足している場合には、外来機能を閉鎖してもよいこととする。(平成23年9月6日付け事務連絡)	-別紙1、12
23	在宅医療・訪問看護の回数制限 *岩手県、宮城県及び福島県のみ利用可	在宅患者訪問診療料や在宅患者訪問看護・指導料、訪問看護基本療養費について、入院可能な病床の不足によりやむを得ない場合には、週3回を超えて算定できることとする。(平成23年9月6日付け事務連絡)	-別紙1、7
24	新薬の処方制限 *岩手県、宮城県及び福島県のみ利用可	患者の周囲にあつた保険医療機関が全て機能していない場合等やむを得ない場合には、新薬については14日を超えて処方することができる。(平成23年9月6日付け事務連絡)	-別紙1、8
25	180日超え入院	住居の損壊、その他の東日本大震災に起因するやむを得ない事情により保険医療機関からの退院に著しい困難を伴う患者は、入院期間が180日を超えた場合も、入院基本料の減額を行わないこととする。(平成26年厚生労働省告示第379号)	-別紙1、9

(※) 上記( )内は特例措置に係る以下の通知及び告示です。

- ① 「平成23年東北地方太平洋沖地震及び長野県北部の地震の被災に伴う保険診療関係等の取扱いについて」(平成23年3月15日付)
- ② 「東北地方太平洋沖地震及び長野県北部の地震に関連する診療報酬の取扱いについて」(平成23年4月1日付)
- ③ 「東北地方太平洋沖地震及び長野県北部の地震に関連する診療報酬の取扱いについて(その2)」(平成23年4月8日付)
- ④ 「東北地方太平洋沖地震及び長野県北部の地震に関連する診療報酬の取扱いについて(その3)」(平成23年4月20日付)
- ⑤ 「東日本大震災に関連する診療報酬の取扱いについて」(平成23年9月6日付)
- ⑥ 「東日本大震災に伴う厚生労働大臣の定める評価療養及び選定療養第二条第七号に規定する別に厚生労働大臣が定める状態等にある者の特例を定める件」(厚生労働省告示535号)

なお、通知・告示の詳細については、以下の厚生労働省HPをご参照ください。

【通知(①～⑥)について】

厚生労働省HP → 東日本大震災関連情報 厚生労働省からのお知らせ → 厚生労働省から発出した通知(計画停電関係は除く) 日付別  
→ 各種通知をご参照ください <http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r985200000151dp.html>

【告示⑥について】

厚生労働省HP → 所管の法令等 → 所管の法令、告示・通達等 → 以下のURLを確認ください。

[http://www.hourei.mhlw.go.jp/cgi-bin/t\\_docframe.cgi?MODE=hourei&MODE=CONTENTS&MODE=NORMAL&KEYWORD=&EFSNO=2182](http://www.hourei.mhlw.go.jp/cgi-bin/t_docframe.cgi?MODE=hourei&MODE=CONTENTS&MODE=NORMAL&KEYWORD=&EFSNO=2182)





東日本大震災に伴う保険診療の取扱いの利用状況に係る報告書(平成27年1月1日現在)

厚生(支)局長 殿

※受付番号 \_\_\_\_\_

利用している特例措置 ※別添2「特例措置の概要」の番号を記載すること	番号: _____ 2又は6を利用している場合は、以下について記載 ・被災後1年間の被災患者受け入れ人数: _____人 (上記患者で現在も入院中の患者数: _____人) ・被災患者を受け入れている病棟の直近1年間の退院患者数(_____人) 病床数(_____床) ・被災前1年間の定数超過(許可病床の100分の105以上の場合)について ( 有 ・ 無 )
	5又は8を利用している場合であって、前回の報告から現在までに月平均夜勤時間数又は、看護要員の比率が1割を超えた一時的な変動があった場合、その期間及び状況について記載 ( _____ )
	15を利用している場合は、被災前(平成23年1月、2月)の平均在院日数を記載 平成23年1月: _____日                      平成23年2月: _____日
	17を利用している場合は、その入院日(※複数名いる場合は、すべての者の入院日を記載) 平成 _____年 _____月 _____日
	1. 医師や看護師の確保が困難であり、不足しているため 2. 転院する施設に申し込んでいるが、後方病床が不足しており、患者の転院が困難であるため 3. 入所する施設に申し込んでいるが、受入体制が整っていないことにより、患者の退院が困難であるため 4. 転院・入所する施設が見つからないことにより、患者の退院が困難であるため 5. 自宅の倒壊や家族等の受入体制が整っていないことにより、患者の退院が困難であるため 6. その他( _____ )
平成27年1月1日時点で特例措置を利用している理由 ※該当するものに○(複数回答可) ※その他の場合は詳細に理由を記載すること	・平成27年4月1日以降も特例措置の利用を継続する必要性( あり ・ なし ) (理由については、複数利用している場合は措置ごとに記載)
	_____ _____ _____
	_____ _____ _____
	_____ _____ _____
	_____ _____ _____
・平成27年4月1日以降も特例措置の利用を継続する必要性の有無とその理由 ・特例状態からの解消に向けた取組 *いずれも詳細に記載すること。	・特例状態からの解消に向けた取組 (これまでの取組及び今後実施予定の取組から解消の見込み等について記載)
	_____ _____ _____
	_____ _____ _____
	_____ _____ _____
	_____ _____ _____

(医療機関名) \_\_\_\_\_ (所在地) \_\_\_\_\_  
 (担当者) \_\_\_\_\_ (連絡先) \_\_\_\_\_

※1 本様式の書式は変えないこと。  
 ※2 受付番号については、地方厚生(支)局都道府県事務所において、1番から連続した番号を付すこと。  
 ※3 所在地は市町村名まで記載すること。  
 ※4 記載事項について問い合わせる場合もあるので、なるべく詳細に記載すること。





入院基本料等に関する実施状況報告書(平成27年1月1日現在)

受付番号※

(別紙2)【病院記入用】	保険医療機関番号						現員数			【その他】		
	届出区分	看護師比率 区分率	平均 在院 (日)数	病棟 (棟)数	許可病床 (床)数	届出病床 (床)数	稼働病床 (床)数	1 日 平均 患者 数 (人)	看護 (人)師		准 看護 (人)師	看護 補助 (人)員
13	特殊疾患入院医療管理料(病棟を単位で算定している場合)											○一般病棟看護必要度評価加算 [有・無]
14	※一般病棟の病室を単位として届出を行っている場合、一般病棟のうち当該病床のみを再掲											○一般病棟看護必要度評価加算 [有・無]
15	地域包括ケア病棟入院料1											○介護職員等特別単位数加算 [有・無]
16	地域包括ケア病棟入院医療管理料1											○訪問看護ステーション加算 [有・無]
17	地域包括ケア病棟入院料2											○在宅看護員加算 [有・無]
18	地域包括ケア病棟入院医療管理料2											○在宅看護員加算 [有・無]
19	小児入院医療管理料4											○DRG加算 [有・無]
20	※一般病棟の病室を単位として届出を行っている場合、一般病棟のうち当該病床のみを再掲											○訪問看護ステーション加算 [有・無]
21	小児入院医療管理料5											○在宅看護員加算 [有・無]
22	※一般病棟の病室を単位として届出を行っている場合、一般病棟のうち当該病床のみを再掲											○訪問看護ステーション加算 [有・無]
23	特定入院料 特定入院料に係る病棟等											○訪問看護ステーション加算 [有・無]
24												○訪問看護ステーション加算 [有・無]
25												○訪問看護ステーション加算 [有・無]
26												○訪問看護ステーション加算 [有・無]
27												○訪問看護ステーション加算 [有・無]
28												○訪問看護ステーション加算 [有・無]
29												○訪問看護ステーション加算 [有・無]
30												○訪問看護ステーション加算 [有・無]
31												○訪問看護ステーション加算 [有・無]
32		外来看護要員数										
33	病棟・外来以外の看護要員数											○訪問看護ステーション加算 [有・無]

# 入院基本料等に関する実施状況報告書(平成27年1月1日現在)

※ 本様式の書式は変えないこと。  
 ※ 平成26年1月1日から平成26年12月までの7対1入院基本料、10対1入院基本料、13対1入院基本料(一般病棟看護必要度評価加算もしくは看護補助加算1)又は特定一般病棟入院料1(一般病棟看護必要度評価加算1)と看護補助加算1、地域包括ケア病棟入院料又は地域包括ケア入院医療管理料の算定医療機関における患者の重症度、医療・看護必要度に係る状況

受付番号※

(別紙3)【病院記入用】

保険医療機関番号

救命救急入院料の届出

有  無

有  無

月	一般病棟		結核病棟		平成27年1月1日現在の届出区分			平成27年1月1日現在の届出区分			地域包括ケア病棟		入院患者の状況			入院患者延べ数の算出期間(1ヶ月)
	届出入院料(区分)	届出病床数(床)	届出入院料(区分)	届出病床数(床)	入院患者延べ数(名)	②のうち重症度、医療・看護必要度の基準を満たす患者の延べ数(名)	③重症度、医療・看護必要度の基準を満たす患者の割合(%) (②/①) ***小数第1位まで記入する	入院患者延べ数(名)	②のうち重症度、医療・看護必要度の基準を満たす患者の延べ数(名)	③重症度、医療・看護必要度の基準を満たす患者の割合(%) (②/①) ***小数第1位まで記入する	届出入院料(区分)	届出病床数(床)	入院患者延べ数(名)	②のうち重症度、医療・看護必要度の基準を満たす患者の延べ数(名)	③重症度、医療・看護必要度の基準を満たす患者の割合(%) (②/①) ***小数第1位まで記入する	
平成26年1月		床		床	名	名	%	名	名	%		床	名	名	%	26年1月1日～ 26年1月31日
2月		床		床	名	名	%	名	名	%		床	名	名	%	26年2月1日～ 26年2月28日
3月		床		床	名	名	%	名	名	%		床	名	名	%	26年3月1日～ 26年3月31日
4月		床		床	名	名	%	名	名	%		床	名	名	%	26年4月1日～ 26年4月30日
5月		床		床	名	名	%	名	名	%		床	名	名	%	26年5月1日～ 26年5月31日
6月		床		床	名	名	%	名	名	%		床	名	名	%	26年6月1日～ 26年6月30日
7月		床		床	名	名	%	名	名	%		床	名	名	%	26年7月1日～ 26年7月31日
8月		床		床	名	名	%	名	名	%		床	名	名	%	26年8月1日～ 26年8月31日
9月		床		床	名	名	%	名	名	%		床	名	名	%	26年9月1日～ 26年9月30日
10月		床		床	名	名	%	名	名	%		床	名	名	%	26年10月1日～ 26年10月31日
11月		床		床	名	名	%	名	名	%		床	名	名	%	26年11月1日～ 26年11月30日
12月		床		床	名	名	%	名	名	%		床	名	名	%	26年12月1日～ 26年12月31日

●平成26年7月～12月に使用した基準について、該当するものに☑を入れること

10月  新  旧  11月  新  旧  12月  新  旧

有床診療所入院基本料等に関する実施状況報告書（平成27年1月1日現在）

【別紙4】有床診療所記入用

受任施設 \*

医療機関名	医療機関番号						都道府県名	診療科名	その他
	開設者番号	介護保険適用の病床の有無	施設基準 (該当する場合は実績件数も記載すること。 ※該当する場合は実績件数も記載すること。)	集積 件数	都道府県番号	市区町村名			
届出区分	許可病床 数	医療保険 届出病床 数	稼働病床 数	1日平均 入院患者 数	現員数		診療科名	その他	
有床診療所 入院基本料 1					看護師 准看護師 看護補助者		1. 内科 2. 心療内科 3. 精神科 4. 神経科 (又は神経内科) 5. 呼吸器科 6. 消化器科 (又は胃腸科) 7. 循環器科 8. アレルギー科 9. リウマチ科 10. 小児科 11. 外科 12. 整形外科 13. 形成外科 14. 美容外科 15. 脳神経外科 16. 呼吸器外科 17. 心臓血管外科 18. 小児外科 19. 皮膚泌尿器科 (又は皮膚科、泌尿器科) 20. 性病科 21. 小児科 22. 産婦人科 (又は産科、婦人科) 23. 眼科 24. 耳鼻いんこう科 25. 気管支道科 26. リハビリテーション科 27. 放射線科 28. 麻酔科 29. 歯科	○在宅療養支援診療所 □ 1. 常勤医師3名等 □ 2. 連携して常勤医師5名等有 □ 3. その他 □ 4. 届出なし ○管理栄養士の数 常勤 [ ] 非常勤 [ ] ○栄養士の数: 常勤 [ ] 非常勤 [ ] ○訪問看護等の算定の有無 (直近3か月) ・在宅患者訪問看護・指導料 □有 □無 ・同一建物居住者訪問看護・指導料 □有 □無 ・精神科訪問看護・指導料 □有 □無 ・退院前訪問指導料 □有 □無 ・在宅患者緊急入院診療加算 □有 □無 ・在宅患者訪問看護管理指導料 □有 □無 加算の届出の有無 ○重症児(者) 受入連携加算 □有 □無 ○有床診療所一般病棟初期加算 □有 □無 ○夜間緊急対応加算 □有 □無 ○医師配置加算 1 □有 □無 ○医師配置加算 2 □有 □無 ○看護配置加算 1 □有 □無 ○看護配置加算 2 □有 □無 ○夜間看護配置加算 1 □有 □無 ○夜間看護配置加算 2 □有 □無 ○看護補助配置加算 1 □有 □無 ○看護補助配置加算 2 □有 □無 ○看護加算 □有 □無 ○有床診療所緩和ケア診療加算 □有 □無 ○栄養管理実施加算 □有 □無 ※稼働病床の届出をしている場合 ○麻酔評価実施加算 □有 □無 ○重症児(者) 受入連携加算 (算定の有無) □有 □無 ○救急・在宅等支援診療所初期加算 □有 □無 ○有取リ加算 □有 □無 ○有床診療所緩和ケア診療加算 □有 □無 ○栄養管理実施加算 □有 □無	
有床診療所 入院基本料 2									
有床診療所 入院基本料 3									
有床診療所 入院基本料 4									
有床診療所 入院基本料 5									
有床診療所 入院基本料 6									
1 入院 2 特別 別添付									
稼働病床									

※有床診療所入院基本料1～3については、上記要件のうち2つ以上に該当すること。

他病棟への入院等の状況について(平成27年1月1日時点)

※受付番号 \_\_\_\_\_

他病棟に入院している患者について、入院基本料又は特定入院料を算定しているものについて、設問①～④について答えて下さい。  
※記載欄が不足する場合には、本用紙をコピーして記載して下さい。

①他病棟に入院している患者数		( )名		
②各々の患者について、 他病棟に入院している理由  ※イの「その他」の場合には、詳細に理由を記載して下さい。	患者A	ア. 入院可能な病床の不足 イ. その他( )		
	患者B	ア. 入院可能な病床の不足 イ. その他( )		
	患者C	ア. 入院可能な病床の不足 イ. その他( )		
	患者D	ア. 入院可能な病床の不足 イ. その他( )		
	患者E	ア. 入院可能な病床の不足 イ. その他( )		
	患者F	ア. 入院可能な病床の不足 イ. その他( )		
③各々の患者について、 入院している病棟を記載し、入院基本料又は特定入院料のいずれを算定しているか、該当するものに丸をつけて下さい。	患者A	病棟	入院基本料	特定入院料
	患者B	病棟	入院基本料	特定入院料
	患者C	病棟	入院基本料	特定入院料
	患者D	病棟	入院基本料	特定入院料
	患者E	病棟	入院基本料	特定入院料
	患者F	病棟	入院基本料	特定入院料
④各々の患者について、 本来入院すべき病棟と、現在入院している病棟からその病棟への移動の目的を教えてください。 目的がない場合は、その理由を詳細に記載して下さい。	患者A	病棟:		
	患者B	病棟:		
	患者C	病棟:		
	患者D	病棟:		
	患者E	病棟:		
	患者F	病棟:		

(医療機関名) \_\_\_\_\_ (所在地) \_\_\_\_\_

(担当者) \_\_\_\_\_ 印 (連絡先) \_\_\_\_\_

※1 本様式の書式は変えないこと。  
 ※2 受付番号については、地方厚生(支)局都道府県事務所において、1番から連続した番号を付すこと。  
 ※3 所在地は市町村名まで記載すること。

(別紙6)

慢性透析患者の他医療機関受診に関する報告書(平成27年1月1日現在)

厚生(支)局長 殿

※受付番号 \_\_\_\_\_

他医療機関による受診 が必要である理由			
○被災地においては透 析設備の復旧の目途 ○被災地外においては 転院の目途	平成 年 月		
	(未定の場合はその理由)		
対象となる慢性透析患者(平成26年7月1日時点) ※記載欄が不足する場合には、本用紙をコピーして記載して下さい。			
患者名(性別)	(男性・女性)	受診先医療機関名	
患者名(性別)	(男性・女性)	受診先医療機関名	
患者名(性別)	(男性・女性)	受診先医療機関名	
患者名(性別)	(男性・女性)	受診先医療機関名	
患者名(性別)	(男性・女性)	受診先医療機関名	
患者名(性別)	(男性・女性)	受診先医療機関名	
患者名(性別)	(男性・女性)	受診先医療機関名	

(医療機関名) \_\_\_\_\_

(所在地) \_\_\_\_\_

(担当者) \_\_\_\_\_

印 (連絡先) \_\_\_\_\_

※1 本様式の書式は変えないこと。

※2 受付番号については、地方厚生(支)局都道府県事務所において、1番から連続した番号を付すこと。

※3 所在地は市町村名まで記載すること。



在宅医療・訪問看護における被災地特例措置 利用状況調査(平成27年1月1日時点)

※受付番号 \_\_\_\_\_

医療機関名・ 訪問看護事業所名	
県名	
所在地 住所	
指定区分(該当するものの数字を○印で囲んで下さい。)	1.医療保険 2. 介護保険 3. 医療保険と介護保険の両方

下記1. ~3. のうち、週3回を超えて算定しているものについて数字を○印で囲み、各々の設問①~②について答えて下さい。  
※記載欄が不足する場合には、本用紙をコピーして記載して下さい。

1. 在宅患者訪問診療料

①週3回を超えて利用している利用者数	( )名
②各々の患者について、 週3回を超えて利用している理由  ※イの「その他」の場合には、詳細に理由を記載して下さい。	患者A ア. 入院可能な病床不足 イ. その他( )
	患者B ア. 入院可能な病床不足 イ. その他( )
	患者C ア. 入院可能な病床不足 イ. その他( )
	患者D ア. 入院可能な病床不足 イ. その他( )
	患者E ア. 入院可能な病床不足 イ. その他( )
	患者F ア. 入院可能な病床不足 イ. その他( )

2. 在宅患者訪問看護・指導料

①週3回を超えて利用している利用者数	( )名
②各々の患者について、 週3回を超えて利用している理由  ※イの「その他」の場合には、詳細に理由を記載して下さい。	患者A ア. 入院可能な病床不足 イ. その他( )
	患者B ア. 入院可能な病床不足 イ. その他( )
	患者C ア. 入院可能な病床不足 イ. その他( )
	患者D ア. 入院可能な病床不足 イ. その他( )
	患者E ア. 入院可能な病床不足 イ. その他( )
	患者F ア. 入院可能な病床不足 イ. その他( )

3. 訪問看護基本療養費

①週3回を超えて利用している利用者数	( )名
②各々の患者について、 週3回を超えて利用している理由  ※イの「その他」の場合には、詳細に理由を記載して下さい。	患者A ア. 入院可能な病床不足 イ. その他( )
	患者B ア. 入院可能な病床不足 イ. その他( )
	患者C ア. 入院可能な病床不足 イ. その他( )
	患者D ア. 入院可能な病床不足 イ. その他( )
	患者E ア. 入院可能な病床不足 イ. その他( )
	患者F ア. 入院可能な病床不足 イ. その他( )

※1 本様式の書式は変えないこと。

※2 受付番号については、地方厚生(支)局都道府県事務所において、1番から連続した番号を付すこと。

(別紙8)

新薬の処方制限に関する報告書(平成27年1月1日現在)

※受付番号 \_\_\_\_\_

厚生(支)局長 殿

新薬を14日を超えて処方している理由	
実績	平成26年 9月 _____ 件
	平成26年10月 _____ 件
	平成26年11月 _____ 件
	平成26年12月 _____ 件

(医療機関名) \_\_\_\_\_ (所在地) \_\_\_\_\_  
(担当者) \_\_\_\_\_ 印 (連絡先) \_\_\_\_\_

- ※1 本様式の書式は変えないこと。
- ※2 受付番号については、地方厚生(支)局都道府県事務所において、1番から連続した番号を付すこと。
- ※3 所在地は市町村名まで記載すること。

(別紙9)

入院期間が180日を超える入院患者に関する報告書(平成27年1月1日現在)

厚生(支)局長 殿

※受付番号

診療年月 平成 年 月

患者名(性別)	(男性・女性)	入院日	平成 年 月 日
生年月日	昭和・平成 年 月 日 ( )歳	入院日総数	日 (平成27年1月1日時点)
入院の契機となった 疾病名		治療を長期化させる原因 となった疾病名	
行っている治療内容			
退院できない理由 ※その他の場合は詳細 に理由を記載すること	1. 転院する施設に申し込んでいるが、後方病床が不足しており、患者の転院が困難		
	2. 入所する施設に申し込んでいるが、受入体制が整っていないことにより、患者の退院が困難		
	3. 転院・入所する施設が見つからないことにより、患者の退院が困難		
	4. 自宅の倒壊や家族等の受入体制が整っていないことにより、患者の退院が困難		
	5. その他(		
退院の予定及び退院へ 向けた支援の概要			

(医療機関名)

(所在地)

(担当者)

印 (連絡先)

※1 本様式の書式は変えないこと。

※2 受付番号については、地方厚生(支)局都道府県事務所において、1番から連続した番号を付すこと。

※3 所在地は市町村名まで記載すること。



入院基本料等の施設基準に係る届出書添付書類

保険医療機関名 \_\_\_\_\_ 病棟数 \_\_\_\_\_ 病床数 \_\_\_\_\_  
届出区分 \_\_\_\_\_ 届出時入院患者数 \_\_\_\_\_ 人

看護配置加算の有無 (該当に○) <u>有</u> <u>無</u>
急性期看護補助体制加算の届出区分 (該当に○) 25対1 (看護補助者5割以上) <u>25対1 (看護補助者5割未満)</u> 50対1 75対1 無
夜間急性期看護補助体制加算の届出区分 (該当に○) <u>50対1</u> 100対1 無
看護職員夜間配置加算の有無 (該当に○) <u>有</u> <u>無</u>
看護補助加算の届出区分 (該当に○) <u>1</u> 2 3 無

○1日平均入院患者数 [A] \_\_\_\_\_ 人 (算出期間 年 月 日 ~ 年 月 日)

① 月平均1日当たり看護配置数 \_\_\_\_\_ 人  
うち、月平均1日当たり夜間看護配置数 \_\_\_\_\_ 人 (看護職員夜間配置加算を届け出る場合に記載)

② 看護職員中の看護師の比率 \_\_\_\_\_ % (月平均1日当たり配置数 : 看護師 人)

③ 平均在院日数 \_\_\_\_\_ 日 (算出期間 年 月 日 ~ 年 月 日)

④ 夜勤時間帯 (16時間) \_\_\_\_\_ 時 \_\_\_\_\_ 分 ~ \_\_\_\_\_ 時 \_\_\_\_\_ 分

⑤ 月平均夜勤時間数 [(D-E) / B] \_\_\_\_\_ 時間

⑥ 月平均1日当たり看護補助者配置数 _____ 人 (急性期看護補助体制加算・看護補助加算等を届け出る場合に記載) うち、月平均1日当たり夜間看護補助者配置数 _____ 人 (夜間急性期看護補助体制加算を届け出る場合に記載)
---

看護要員数 (常勤換算数) 看護師 \_\_\_\_\_ 人 准看護師 \_\_\_\_\_ 人 看護補助者 \_\_\_\_\_ 人

勤務計画表

種別 <sup>※1</sup>	番号	病棟名	氏名	雇用・勤務形態 <sup>※2</sup>	夜勤の有無		日付別の勤務時間数 <sup>※5</sup>					月勤務時間数 (延べ時間数)	(再掲)夜勤専従者及び月16時間以下の者の夜勤時間数
					(該当するつに○) <sup>※3</sup>	夜勤従事者数 <sup>※4</sup>	1日 曜	2日 曜	3日 曜	……	日 曜		
看護師				常勤・短時間・非常勤・兼務	有・無・夜専								
				常勤・短時間・非常勤・兼務	有・無・夜専								
准看護師				常勤・短時間・非常勤・兼務	有・無・夜専								
				常勤・短時間・非常勤・兼務	有・無・夜専								
看護補助者				常勤・短時間・非常勤・兼務	有・無・夜専								
				常勤・短時間・非常勤・兼務	有・無・夜専								
夜勤従事職員数の計						[B] <sup>※4</sup>	月延べ勤務時間数の計					[C]	
月延べ夜勤時間数					[D-E]		月延べ夜勤時間数の計					[D]	[E]
1日看護配置数 <sup>※6</sup>		[(A/届出区分の数 <sup>※7</sup> ) × 3]				月平均1日当たり看護配置数					[C/(日数×8)]		
夜間看護配置数 <sup>※6※9</sup>		A/12		月平均1日当たり夜間看護配置数 <sup>※8</sup>			[D/(日数×16)]						

(急性期看護補助体制加算・看護補助加算等を届け出る場合の看護補助者の算出方法)

看護補助者のみの月延べ勤務時間数の計 [F]	
みなし看護補助者の月延べ勤務時間数の計 [G]	[C] - [(1日看護配置数 × 8 × 日数)]
看護補助者のみの月延べ夜勤時間数 [H]	看護補助者(みなしを除く)のみの [D]
1日看護補助配置数 <sup>※9</sup> [I]	[(A/届出区分の数 <sup>※7</sup> ) × 3]
月平均1日当たり看護補助者配置数(みなし看護補助者含む)	[F+G/(日数×8)]
月平均1日当たり看護補助者配置数(みなし看護補助者除く) [J]	[F/(日数×8)]
夜間看護補助配置数 <sup>※9</sup>	A/届出区分の数 <sup>※7</sup>
月平均1日当たり夜間看護補助者配置数	[H/(日数×16)]
看護補助者(みなし看護補助者を含む)の最小必要数に対する看護補助者(みなし看護補助者を除く)の割合 (%)	[(J/1) × 100]

(記載上の注意)

- ※1 看護師及び准看護師と看護補助者を別に記載すること。なお、保健師及び助産師は、看護師の欄に記載すること。看護部長等、専ら病院全体の看護管理に従事する者及び病棟勤務と当該保険医療機関附属の看護師養成所等の専任教員、外来勤務、手術室勤務又は中央材料室勤務等とを兼務しない看護要員の数及び勤務時間は除くこと。
- ※2 短時間正職員が病棟勤務する場合は雇用・勤務形態の短時間に、病棟と他部署等との兼務または専任の看護職員が病棟勤務する場合は雇用・勤務形態の兼務に○を記入すること。
- ※3 夜勤専従者は、夜専に○、夜勤時間帯の勤務が月16時間以下の者及び月12時間未満の短時間正職員は、無に○を記入すること。
- ※4 夜勤有に該当する者について、夜勤を含めた交代勤務を行う常勤者(夜勤専従者は含まない)は1を記入し、病棟兼務、非常勤職員及び短時間正職員の場合は、1か月間の病棟勤務の実働時間を時間割比例計算した数を記入すること。なお、夜間急性期看護補助体制加算を算定している場合には看護補助者の従事者数を記入する必要があるが、急性期看護補助体制加算又は看護補助加算については、看護補助者の夜勤従事者数を記入しなくてよい。看護職員と看護補助者の勤務計画表をわけて作成しても差し支えない。
- ※5 上段は日勤時間帯、下段は夜勤時間帯における所定の勤務時間数をそれぞれ記入すること。
- ※6 小数点以下切り上げとする。
- ※7 届出区分の数とは、当該区分における看護配置密度(例えば10対1入院基本料の場合「10」、急性期看護補助体制加算1の場合「25」、夜間急性期看護補助体制加算1の場合「50」)をいう。

※8 月平均1日当たり夜間看護配置数は参考値であり、実際には常時12対1を満たす必要がある。

※9 夜間看護配置数は参考値であり、実際には日々の入院患者数により、必要となる夜間看護配置数は異なる。

〔届出上の注意〕

- 1 届出前1ヶ月の各病棟の勤務計画表（勤務実績）及び2つの勤務帯が重複する各勤務帯の申し送りの時間が分かる書類を添付すること。
- 2 7対1特別入院基本料及び10対1特別入院基本料を算定する場合には、看護職員の採用活動状況等に関する書類を添付すること。
- 3 看護職員夜間配置加算の届出の際には、届出前1か月の日々の入院患者数等により、看護師の配置状況が分かる書類を添付すること。





(別紙11) 管理者用 質問票

以下の質問に対して、該当する数字を選択し、太線枠内に記載してください。

1. 震災前から看護職員不足ですか。	【0. いいえ 1. はい】			
2. 震災前より看護職員が何人減っているか。	【 人】			人
3. 何人看護職員が確保されれば、特例措置を活用しなくてすむか。	【 人】			人
4. 看護職員の採用活動は行っているか。	【0. いいえ 1. はい】			
5. 看護職員の確保に活用しているものはなにか。				
【1. 求人公告 2. ナースセンター 3. ハローワーク 4. 有料職業紹介所】				
6. 新規採用者は、増えていますか。増えた場合はその人数を教えてください。	【0. はい 1. いいえ】			人
7. 看護補助者の求人はいしているか。	【0. いいえ 1. はい】			
8. 超過勤務は、震災以降増えているか。	【0. いいえ 1. はい】			
9. 退職者は、震災以降増えているか。	【0. いいえ 1. はい】			
10. 長期欠員者は、震災以降増えているか。増えた場合はその人数を教えてください。	【0. いいえ 1. はい】			人
11. 長期欠員の主な理由は何か。【1. 避難 2. 心理的要因 3. その他】		1		人
		2		人
		3		人
12. 職員の復帰や採用のために必要な体制整備は何か。				
【1. 住居 2. 保育所 3. 交通機関 4. ところのケア 5. その他( )人】				
13. 特例措置の継続の必要性	【0. 不要 1. 必要】			
14. 看護職の労働環境の現状と課題について【自由記載】				

(別紙11)看護職員用 質問票

以下の質問に対して、該当する数字を選択し、太線枠内に記載してください。

※可能な限り複数名に回答を求めて下さい。記載欄が不足する場合には、本用紙をコピーして記載して下さい。

<p>1. 超過勤務は、震災以降増えているか。</p> <p>2. 夜勤回数は、震災以降増えているか。</p> <p>3. 2の質問の回答が1の人のみ回答してください。</p> <p>4. 研修参加は、震災以降増えているか。</p> <p>5. 健康状態は、震災以降変化したか（体調が不良となったか）。</p> <p>6. 週休は確保出来ているか。</p> <p>7. 有休は確保出来ているか。</p> <p>8. 特例措置の継続の必要性</p> <p>9. 看護職の区分及び労働環境の現状と課題について【自由記載】</p>	<p>【0. いいえ 1. はい】</p> <p>【0. 減った・変わらない 1. 増えた】</p> <p>【0. 月1回程度 1. 月2回以上】</p> <p>【0. はい 1. いいえ】</p> <p>【0. いいえ 1. はい】</p> <p>【0. はい 1. いいえ】</p> <p>【0. はい 1. いいえ】</p> <p>【0. 不要 1. 必要】</p>	看護師A	看護師B	看護師C	看護師D	看護師E
	看護師A(正・准): _____					
	看護師B(正・准): _____					
	看護師C(正・准): _____					
	看護師D(正・准): _____					
	看護師E(正・准): _____					

<p>1. 超過勤務は、震災以降増えているか。</p> <p>2. 夜勤回数は、震災以降増えているか。</p> <p>3. 2の質問の回答が1の人のみ回答してください。</p> <p>4. 研修参加は、震災以降増えているか。</p> <p>5. 健康状態は、震災以降変化したか（体調が不良となったか）。</p> <p>6. 週休は確保出来ているか。</p> <p>7. 有給は確保出来ているか。</p> <p>8. 特例措置の継続の必要性</p> <p>9. 看護職の区分及び労働環境の現状と課題について【自由記載】</p>	<p>【0. いいえ 1. はい】</p> <p>【0. 減った・変わらない 1. 増えた】</p> <p>【0. 月1回程度 1. 月2回以上】</p> <p>【0. はい 1. いいえ】</p> <p>【0. いいえ 1. はい】</p> <p>【0. はい 1. いいえ】</p> <p>【0. はい 1. いいえ】</p> <p>【0. 不要 1. 必要】</p>	看護師F	看護師G	看護師H	看護師I	看護師J
	看護師F(正・准): _____					
	看護師G(正・准): _____					
	看護師H(正・准): _____					
	看護師I(正・准): _____					
	看護師J(正・准): _____					

(別紙12)

外来機能の一時閉鎖に関する報告書(平成27年1月1日現在)

※受付番号 \_\_\_\_\_

厚生(支)局長 殿

外来機能を閉鎖 している理由	
実施している医療 (該当するものの数字を ○印で囲んでください)	1. 入院医療                      2. 在宅医療

(医療機関名) \_\_\_\_\_ (所在地) \_\_\_\_\_  
(担当者) \_\_\_\_\_ 印 (連絡先) \_\_\_\_\_

- ※1 本様式の書式は変えないこと。
- ※2 受付番号については、地方厚生(支)局都道府県事務所において、1番から連続した番号を付すこと。
- ※3 所在地は市町村名まで記載すること。





一日平均入院患者整理表

※本様式の内容を全て含んでいるものであれば、  
これ以外の様式による整理でも可である。

平成 年 月 分 (届出時)

日付	1	2	3	4	5	6	25	26	27	28	29	30	31	1日平均入院患者数
入院患者数														

平成 年 月 分

日付	1	2	3	4	5	6	25	26	27	28	29	30	31	1日平均入院患者数
入院患者数														

平成 年 月 月 ~ 平成 年 月 月 の一日平均入院患者数 人

※直近2ヶ月分

平成 年 月 分

日付	1	2	3	4	5	6	25	26	27	28	29	30	31	1日平均入院患者数
入院患者数														

平成 年 月 月 ~ 平成 年 月 月 の一日平均入院患者数 人

※直近3ヶ月分

平成 年 月 分

日付	1	2	3	4	5	6	25	26	27	28	29	30	31	1日平均入院患者数
入院患者数														

平成 年 月 月 ~ 平成 年 月 月 の一日平均入院患者数 人

※直近4ヶ月分

様式3

※本様式の内容を含んでいる  
 ものであれば、これ以外の  
 様式による整理でも可である。

○看護師、准看護師及び看護補助者の数の整理表  
 (一日当たり勤務する看護師及び准看護師又は看護補助者(以下「看護要員」という。)  
 の数、看護要員の数と入院患者の比率並びに看護師及び准看護師の看護師の  
 比率が1割以上2割以内の変動の場合)

平成26年9月末時点の雇用者数

看護師	准看護師	看護補助者
人	人	人

月延べ勤務時間数(全体) 時間

月平均夜勤時間数(全体) 時間

平成26年10月末時点の雇用者数

看護師	准看護師	看護補助者
人	人	人

月延べ勤務時間数(全体) 時間

月平均夜勤時間数(全体) 時間

平成26年11月末時点の雇用者数

看護師	准看護師	看護補助者
人	人	人

月延べ勤務時間数(全体) 時間

月平均夜勤時間数(全体) 時間

平成26年12月末時点の雇用者数

看護師	准看護師	看護補助者
人	人	人

月延べ勤務時間数(全体) 時間

月平均夜勤時間数(全体) 時間

